

将来ビジョン及び必要な取組・事業

提案主体名	蓮台寺旅行株式会社 清流荘	※複数主体の連名の場合は「、」で区切って記入してください。
提案プロジェクト名	下田環境アミューズシティ“ECOラグジュアリー”プロジェクト	※同一主体で複数の提案をする際は別名称としてください。
対象地域	都道府県名 静岡県 市町村名 下田市	※複数の都道府県にわたる場合は「、」で区切って記入してください。 ※複数の市町村にわたる場合は「、」で区切って記入してください。 ※複数の地域を指定する場合は「および」を併記してください。

① 関連する分野	環境（低炭素 循環 生物多様性） 超高齢化（高齢者就業推進） その他（新産業確立 新観光滞在モデル確立）	※国際連携・国際化に関する事項は、分野ではないため、「その他」欄に記載しないでください。
-----------------	--	--

② 将来ビジョン（環境価値、社会的価値、経済的価値の創造に関する総合的な目標（2050年を見据えた上での2020年、2030年の姿））	こは1000文字以内の要約を記載願います。詳細資料は参考資料(様式自由)として添付してください。
--	--

伊豆半島の先端に位置する下田市は、ペリ来訪で知られる歴史と良港及び蓮台寺温泉に代表される観光市である。24,752人（推計人口、2011年4月1日）、面積104.70km²の小さい市ではあるが、南伊豆最大の街と伊豆急の終着地として、温暖な気候と海と里山の魅力地として、わが国の中で独自の位置にある国際観光地である。当地の人口減少は著しく、1975年（昭和50年）の31,700人から一本調子で減少を続け、減少幅も大きくなっているのが実情である。そんな中、観光を中心とするなかでの各産業の振興を目指して、地元若手経営者や観光産業の有志が新たな魅力開発に取り組んでいるが、ここに来て震災による客足鈍化の影響から地域は大きなダメージを受けている。しかしながら、当地の観光資源は将来においても輝き続けるものであり、今後、さらなる魅力の構築を図れば、今まで以上の国際的知名度を獲得することは充分可能と考える。将来のグランドデザインを見据えながら既存の産業の有りかたを見直し、下田ならではの新たな価値を構築・発信する。この場合の新たな価値とは、「環境対応」を（主）に内外ラグジュアリー層にアピールする「ECOラグジュアリー」のありかた確立と、無理のないかたちでの高齢化対応下田ライフスタイルの確立である。従来型観光産業は環境対応とはかなり離れた立ち位置にあったが、これを全域で、環境負荷の少ない事業のあり方に転換、地域としてのエネルギー政策見直しを含め、伊豆半島のECO化に貢献できるようにする。これに加えて、豊かな半島先端の海と南伊豆地域独自の種生や生物分布などから成る生物多様性の魅力を前面に出し、かつ、「観光地としての環境対策」をも視察・見学対象としてもらう。また、当地は観光産業にかかわる多くの人々が存在し、その暮らしそのものが、多くの来訪者を知っていただくべき魅力あるライフスタイル＝“生活観光価値”となる必要がある。このことの実現のためには、地域の現状に即した高齢者雇用や若年層の流入のための雇用創出のあり方検討が重要であり、全ての産業を「地域経営」という視点から再構築する必要を意味する。こうした点を踏まえ、地域の中長期目標を定めるならば、2020年には新たな下田型環境観光の基本的フレームが8割程度完成し、2030年には生活モデルを含めた「地域内が独自の自立経済圏として機能する」地域経営手法を確立、2050年には自然・再生可能エネルギーをベースにした完全ECO観光都市として、世界の要人およびラグジュアリー層を中心とした内外の客層にとって魅力的な滞在型ディステーションとして君臨していくものである。

③ 将来ビジョン(②に記載した目標の実現のための取組の基本的な考え方)	こは1000文字以内の要約を記載願います。詳細資料は参考資料(様式自由)として添付してください。
--	--

上記の目標を実現させるために、下記の考え方を基本として推進する。
 (1) 地域ならではの無理のないライフスタイルの確立と協同した「地域経営」モデルを見出し(“地域の自立”)を実現する。
 (2) ECOラグジュアリーと高齢化を前提にした産業振興、高齢者就業のあり方検討(雇用創出)を検討する。
 (3) 観光とリンクさせた農水産業6次化など「自然活用」の重層的サービスのあり方を地域全体で実現する。
 (4) 自然・再生可能エネルギーの地域一体的な活用・導く。

④ 将来ビジョンの実現のために5年以内に必要となる具体的な取組・事業(技術・システム、サービス、仕組み等)

番号	取組・事業の名称	取組・事業の概要	取組・事業の期間	実施主体・価値、分野の種類	国の支援の必要性
(1)	下田環境観光エリア創造計画・調査事業	伊豆半島南部エリアにおいて、観光産業における環境技術活用と地域の暮らしにおける高齢者雇用創出とコミュニティ再構築をテーマとした、グランドデザイン(中・長期計画を策定する事業。	調査・計画 平成24～25年	環境、低炭素・循環 超高齢、雇用創出	○
(2)	ECO観光産業集積化基盤整備事業	環境保全と観光産業の両立、および生物多様性を中心にした自然環境の(負荷無い形で)観光利用、をメインテーマにした、地域観光関連産業のブラッシュUPを推進する。最終的に、地域一帯として「環境対応型観光地」として、地域の観光のあり方や地域内の暮らし(＝ライフスタイル)そのものを、滞在しながら「体験し、学べ、視察研究できる」地域まるごとECOアミューズメント施設、となるような、トータルな回遊誘発型ECOまちづくり展開を推進する。	調査・計画・実証 平成24～26年	環境、低炭素・循環、超高齢、高齢者雇用創出 その他、新産業創出	○
(3)	高齢者農業従事実現6次化モデル確立事業	当地域では、農業は大規模な耕地面積がないものの、かんきつ類、茶、花き、きのこなど、加工開発研究によっては地域のブランド産品になり得るものも多い。またワカメやサンマなども今後、開発余地ある海産物である(海外では歴史的に、サンマは下田がメイン産地として認識されている)。こうした素材に関する6次化を地域の風土や食文化にひきつける形で事業化し、高齢者であってもゆとりあるかたちで従事できる就労モデルを構築・確立する。この基盤として、一次産業従事者の高齢化に対応するためには栽培や使用機械の技術革新という科学的課題に併せて、都市部の若年労働力の加入促進、および実推進に有効な交流のありかた確立など社会的解決を図らねばならない課題もあり、これをテーマとして推進する。	調査・計画・実証 平成25～29年	超高齢、高齢者対応農6次化推進 その他、新産業創出	○
(4)	地域経営モデル確立事業	観光産業ブラッシュUPから始まる定住化モデルとして当該エリアが(将来的には国内外との取引において収益を蓄え得るとしても)、まずは、地域内経済の循環を概ね確立するあたりに目指さねばならない。こうした「地域経営」モデルの確立のためには、エリア内の住民や流入民の当該エリアへの「住まいかた＝ライフスタイル」をある程度目標合意的に確立していくことが必要である。エネルギーにおいて脱原発、農業においてブランド化(JA任せの流通でなく)、観光において滞在(旅行エージェント任せの集客でなく)、などを同時に遂行させ、当該エリアならではの、持続可能な経済規模の見出しを図り、将来的には全国に「持続可能な環境観光都市モデル」としての成果を、還元できるような検証を併せて推進する。	調査・計画・実証 平成24～29年	超高齢、地域ライフスタイル確立	○
(5)	環境対応型2次交通確立事業	滞在型地域を目指す隘路として当該地域は、2次交通が充分でない点が挙げられる。高低差ある市内を循環する環境対応交通のあり方を検討し、EV・ハイオクターノール車などの地域一帯導入を推進する。	平成24～29年	観光、低炭素、超高齢、高齢者移動	○
(6)	食品残さりサイクル確立事業	地域内の観光施設や飲食業社などから排出される食品残さを、市内で回収し、バイオプラントにより、(液肥等に)返還していく取組を、エリア全体で展開する。	調査・計画・実証 平成24～29年	環境、循環	○
(7)	再生可能エネルギー活用発電事業	太陽熱・地熱・温泉熱・風力・小水力・バイオマス等を複合的に活用する地域内エネルギー自給モデルを確立する。これは前述の、地域における「新たなライフスタイル確立」とも歩調を合わせ、無理のない形で、過剰な設備投資に陥らないかたちで推進させる。	調査・計画・実証 平成24～29年	環境、低炭素	○
(8)	生物多様性インタープリター育成事業	豊かな海と半島性の特徴ある自然の魅力や、環境負荷無く最大限に観光に活かすためには、生物多様性を中心としたガイドング体制確立が必要である。当地には現状、自然ガイドも存在するが、数が少なく、観光宿泊産業とのリンクが充分でない。今後増やさなければならぬ。滞在型観光の有効な切り口のひとつであるエコツーリズムを、生物多様性を解説できる下田流インタープリテーションとして確立し、地域における既存の海洋研究機関と連携した国際的な海洋エコツーリズム基地として世界に名をとどろかせ。	調査・計画・実証 平成25～29年	環境、生物多様性	○
(9)	ラグジュアリー層対応新滞在スタイル確立事業	下田は外国人観光客にも知られた地であると同時に、滞在型観光地としての観光要素を充分に保有している。これを活かしながら、将来に向けて、「環境」と「持続可能なライフスタイル」をキーワードにしながら、いっそうの重点ターゲットとしてラグジュアリー層向けの魅力開発をエリア全域で推進し新たな滞在スタイルを確立する。	調査・計画・実証 平成25～29年	環境、低炭素 その他、新産業創出	○
(10)	新産業統合型エリアコミュニティ再生事業	“自然環境保全に関する新たな働き方・ライフスタイル”とリンクさせた形で、新たな地域内コミュニティの復活・成長を図る。地域住民コミュニティを活かすありかたを産業再配置の状況下で検討する社会実験モデルを積み重ね、超高齢化への対応型の全国モデルを確立する。	調査・計画・実証 平成24～29年	超高齢、地域ライフスタイル確立 その他 地域コミュニティ再確立	○

⑤ ④に記載した技術・システム等をインテグレートして実現するイノベーションの内容	こは1000文字以内の要約を記載願います。詳細資料は参考資料(様式自由)として添付してください。
---	--

地域における社会的ニーズと技術開発規模を併せながら推進する「身の丈」認識のまちづくり革新」を推進哲学とする。高齢対応・観光産業集積を、地域の自然資源の中で捉え、「大胆・革新的ながら地域スタイルを守る」かたちでのまちづくりを推進する。社会的ニーズと技術開発投下の関係を、調査研究によって数値化し、住みやすさと持続可能性のファクターを洗い出し平衡式をつくる実証的な開発のあり方を貫く。